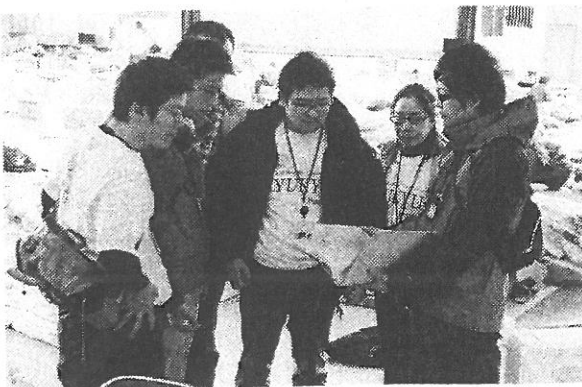


王荒 王求 楽斤 幸反

体験を共有 一緒に泣く

岩手 琉球病院心のケアチーム 医師ら避難所巡回



被災者に声を掛けるための打ち合わせをする「心のケアチーム」＝岩手県宮古市内の避難所

【岩手県で新垣毅】東日本大震災で親族や知人、家、仕事などを失った被災者の精神的負担を和らげようと、国立病院機構の琉球病院と菊池病院(熊本県)

による「心のケアチーム」第2陣が4日から被害が大きかった岩手県宮古市に入り、被災者たちの悩みに耳を傾けている。「死んだ方に申し訳ない」「私より大変

な人がいる」などと当初は胸の内を打ち明けなかった被災者たちは徐々に口を開き始めた。チームのメンバーは「泣きたくなれば涙をこらえず一緒に泣くなど、体験を共有することで寄り添うことを心掛けている。

チームは医師や看護師ら6人。2週間、市内17避難所を巡回。一人一人に声を掛け、必要な人は面談をしてじっくり話を聞く。ショックで現実を受け入れられない人が多かったが、被災から1カ月近くがたち、自分の家の片付けに出掛けたりするなど、前に進むようにする人が増えてきた。

避難所内は被災者同士がいたわり合い、穏やかな雰囲気になってきているという。避難所から一時帰宅する

人々へのケアの対応が課題となっており、チーム責任者の池田太一郎精神科医は「行政と連携し支援していく必要がある」と話した。